

PA5756T 3ch D-class amplifier with digital channel divisor 3ch チャンネルデバイダー付 D クラスアンプ

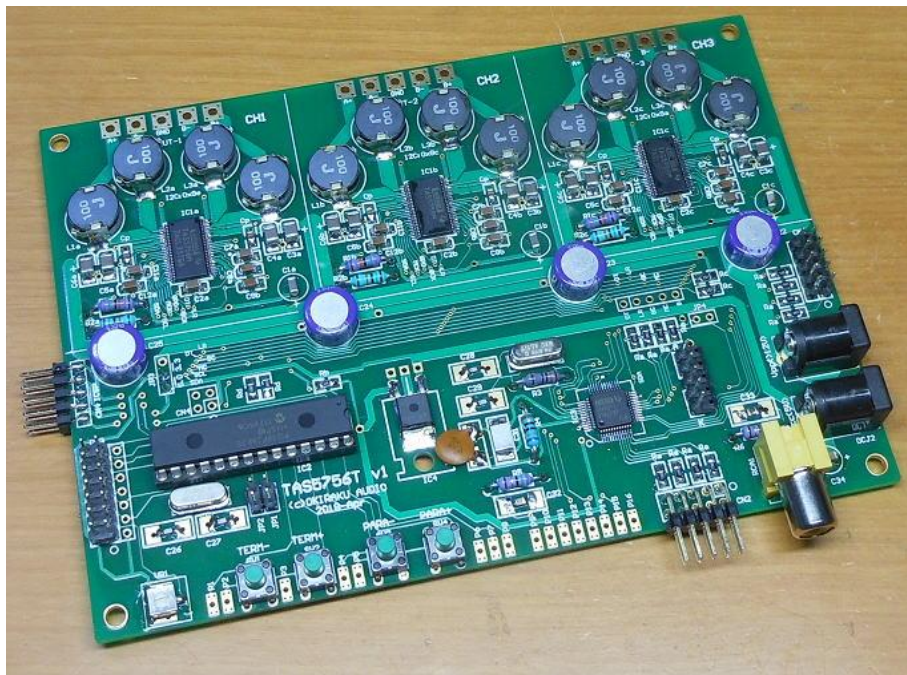
<注意>

本キットをつかって生じた感電、火災等の一切のトラブルについては、当方は責任を負いませんのでご了承ください。また、基板、回路図、マニュアル等の著作権は放棄していませんので、その一部あるいは全体を無断で第3者に対して使用することはできません。また仕様は予告なく変更する場合があります。

1. はじめに

本基板は TI 社の TAS5756 を 3 個用いた 3ch の D クラスアンプです。さらに TAS5756 内の miniDSP 機能を活用したデジタルフィルタによるチャンネルデバイダー機能も有しているため、マルチウエイスピーカにネットワークなしに直結することが可能です。本機には DAI (Digital Audio Interface) も搭載していますので、直接的に CDP を接続することができますので、極めてシンプルなシステムを構築することができます。

本機では各種の設定のために PC は不要で、スタンドアロンで設定が簡易におこなえます。お気楽にマルチウエイアンプを構築するのに適しているでしょう。



完成例 (写真は v1 基板。リリースは v2 以降になります)

2. 仕様 (Specification)

表 主な仕様 (Specification)

機能 Function	デジタルチャンネルデバイダー機能付 D クラスアンプ 3ch D-class amplifier with digital channel divisor
素子 Device	TAS5756
仕様 & 特徴 Spec. and features.	・ステレオ 3ch 分のデジタルフィルタおよび D クラスアンプ ・入力周波数 : 32~192kHz ・フィルタ種類 : バターワース、リンクウィッツ・ライリー ・遮断特性 : -12, -24, -36, -48dB/oct から選択 ・デジタルボリューム機能 (-103dB~0dB/0.5dB ステップ) ・入力 SPDIF: 4CH、PCM : 2ch フォーマット I2S, LJ, RJ16-32
必要電源 POWER	・5V300mA および 12V 以上 (電圧電流はアンプ出力に依存。実用には 15-20V を推奨) の 2 電源。
基板仕様	FR4、厚さ 1.6mm、銅箔厚 70 μ m、金メッキ、サイズは巻末

3. 端子機能

(1) 基板端子機能

本基板における基板端子の機能を下表に示します。

表 基板端子機能

No	機能	内容	備考
P1	TERM-	機能設定用キーの入力になります。P3 をコモンとしてスイッチを接続します。 TERM+, TERM-, PARA+, PARA-	通常はタクトスイッチなどを接続します。接続の詳細については「5. 接続方法」を参照ください。
P2	TERM+		
P3	GND		
P4	PARA-		
P5	PARA+		
P6	GND	電子ボリューム接続	VR による電子ボリュームを使用する場合に接続します。使用しない場合は P6, 7 間を短絡させておいてください。
P7	CT		
P8	VDD		
P9	SPDIF0	SPDIF 同軸入力 (ch. 0)	デジタル入力になります。 SPDIF の CH. 1 は RCA1 からの入力になります。
P10	GND		
P11	VDD (3. 3V)	SPDIF デジタル入力 (ch. 2)	
P12	SPDIF2 (+)		
P13	GND	光受信モジュール接続を想定	
P14	VDD (3. 3V)	SPDIF デジタル入力 (ch. 3)	
P15	SPDIF3		
P16	GND	光受信モジュール接続を想定	
CH1 A+	CH1 左 SP (+)	SP 出力 CH1	BTL 出力になりますので、互いのチャンネル間の出力を共通化することはできません。 一般的には下記の接続になりますが、設定で変更可能です。 CH1:LOW (WOOFER) CH2:MID (MID RANGE) CH3:HIGH (TWEETER)
CH1 A-	CH1 左 SP (-)		
CH1 GND	GND		
CH1 B-	CH1 右 SP (-)	SP 出力 CH2	
CH1 B+	CH1 右 SP (+)		
CH2 A+	CH2 左 SP (+)		
CH2 A-	CH2 左 SP (-)		
CH2 GND	GND		
CH2 B-	CH2 右 SP (-)	SP 出力 CH3	
CH2 B+	CH2 右 SP (+)		
CH3 A+	CH3 左 SP (+)		
CH3 A-	CH3 左 SP (-)		
CH3 GND	GND		
CH3 B-	CH3 右 SP (-)		
CH3 B+	CH3 右 SP (+)		

(2) コネクタ機能

本基板には6つのピンコネクタ (CN1-CN4) ならびに1つの RCA (RCA1) コネクタ、2つの DC ジャックがあります。下記にそれぞれの機能を示します。

(i) CN1, 2: PCM-INPUT 10P connector

CN1, 2 は PCM 入力用のコネクタです (CN1, 2 is a input for PCM)。CN1, CN2 はそれぞれ PCM2, PCM1 入力に対応します。マスタークロックは供給しなくてもかまいません (TAS5756 は内部の PLL にて miniDSP 動作のためのクロックを生成します)。入力フォーマットについては既定値は I2S ですが、他への変更も可能です (「9. 操作方法」を参照ください)。

Table CN1, 2 (PCM INPUT)

Pin	Name	Content	Pin	Name	Content
1	DATA	DATA	2	GND	GND
3	LRCK	LR CLOCK (WORD CLOCK)	4	GND	GND
5	BCK	Bit Clock	6	GND	GND
7	(MCK)	(Master Clock)	8	GND	GND
9	N. C		10	N. C	

(ii) CN3: LCD 14P connector

CN3 は LCD を接続する 14P のコネクタです。接続のバリエーションのため3列構成にしています (外側の列の機能は内側と同じ)。本基板における機能設定のためには LCD は必須になります。LCD は秋月電子等で販売される SC2004 シリーズのみが適合します。SC1602 は電源ピンが異なるため使用できません (表示容量も足りません)。

表 CN6 の端子機能 (LCD connector for SC2004)

PIN	機能	説明	PIN	機能	説明
1	VSS	GND	2	VDD	3.3 or 5.0V
3	VC	LCD コントランス用 (VR1 で調整)	4	RS	LCD RS
5	GND	GND	6	E	LCD E
7	GND	GND (LCD データ D0)	8	GND	(LCD データ D1)
9	GND	GND (LCD データ D2)	10	GND	(LCD データ D3)
11	DB4	LCD データ D4	12	DB5	LCD データ D5
13	DB6	LCD データ D6	14	DB7	LCD データ D7

(iii) CN4: ICSP および AUX OUTPUT

システム予約用です。

※外部に追加の TAS5756 を追加して I2C 制御する場合に用いることを想定してます (4ch に拡張します)。

※ICSP はソフト開発用の端子です。

(iv) RCA1

RCA1 は SPDIF (同軸) 入力の ch1 に対応します。

(v) DCJ

DCJ1 はパワーアンプ用の電源入力です。15-20V 程度の電圧を入力します。

DCJ2 はディジタルおよびアナログ回路用の電源入力です。5V を入力します。

DCJ1, 2 への電源はφ2.1 のコネクタを使用して接続しますが、コネクタを使用せずに直接配線してもかまいません。

(3) ジャンパー機能

本基板には JP1～JP4 の 3 つのジャンパーがあります。それぞれの機能を以下に示します。

(a) JP1, 2

システムでの予約用です。使用しないでください。

※JP1 は 4ch 拡張用のジャンパーです。開放で既定値の 3ch、短絡で 4ch に拡張します (I2C で 0x98 の TAS5756 を追加し制御します。

※JP2 は操作モードの拡張を設定します。JP2 を短絡することでシステム設定を拡張します。

(b) JP3

LCD を使用する場合の電源電圧を選択します。かならず 3.3 あるいは 5.0 のどちらかに設定してください。

Table JP3 LCD voltage select

	Content
3.3	LCD POWER SUPPLY 3.3V
5.0	LCD POWER SUPPLY 5.0V (default)

(c) JP4

JP4 は TAS5756 の MCK を GND に接続させるジャンパーです。TAS5756 は MCK を使用しませんので、JP4 は既定値で短絡となっています。TAS5756 の MCK を DIX9211 から入力する場合には JP4 を開放 (切断) し、Re に 51 Ω 程度の抵抗を実装します。

4. 部品表例

部品表例を示します。ディジタルアンプ部は同じ回路が3つありますので、同じ部品番号として枝番 a-c をつけています。

表 部品表例

品名	番号	規格	仕様	個数	備考
抵抗 Resister	R1a-c	金属皮膜 1/4W	750k Ω	3	
	R2a-c	金属皮膜 1/4W	150k Ω	3	
	R3	炭素皮膜 1/4W	100 Ω	1	
	R4	金属皮膜 1/4W	680 Ω	1	PLL 用
	R5, 6	金属皮膜 1/4W	75 Ω	2	
	Ra	チップ抵抗	51 Ω	11	ダンピング抵抗
	Rb	チップ抵抗	47k Ω	1	
	Rc	チップ抵抗	1k Ω	2	I2C プルアップ用
	Rd	チップ抵抗	51 Ω	2	I2C ダンピング用
	Re	-	-	-	実装しません
可変抵抗	VR1	1 回転サーメット	10k Ω (B)	1	LCD コントラース調整用
コンデンサ capacitor	C1a-c	電解コンデンサ	47 μ F	25V	
	C2a-c	チップセラミック	1 μ F	3	
	C3-6, a-c	チップセラミック	10 μ F 耐圧 25V 以上	12(*1)	3225 パターン (3216 も可)
	C7-9a-c C8-12a-c	チップセラミック	1 μ F 耐圧 25V 以上	15	3216 パターン (3216, 2012, 1608 が可)
	C14-21a-c	チップセラミック	1 μ F 耐圧 25V 以上	24	3216 パターン (3216, 2012, 1608 が可)
	C22-25	電解コンデンサ	220 μ F/35V	4	
	C26-29	セラミックコンデンサ	15-22pF	4	
	C30	フィルムコンデンサ	4700pF	1	
	C31	フィルムコンデンサ	0.068 μ F	1	
	C32, 33	フィルムコンデンサ	0.1 μ F	1	
	C34	電解コンデンサ	100 μ F/16V	1	
	Cp	チップセラミック	0.1 μ F	28	2012, 1608 サイズ 耐圧 10V 以上
	Cc	チップセラミック	10 μ F 以上	2(*1)	3225 パターン (3216 も可)
インダクタ	L1-4a-c	SMD あるいは リード式タイプ	10 μ H	12	
水晶	XT1	HC-49U	10MHz	1	
	XT2	HC-49U	24.576MHz	1	
IC	IC1a-c	D-Class Amp	TAS5756	3	
	IC2	CPU	28p-DIP PIC	1	PIC Controller
	IC3	DAI	DIX9211	1	
	IC4	電圧レギュレータ 3.3V	48M033	1	78N00 と同じピン配置
SW	SW1-4	タクトスイッチ		(4)(*2)	外付けする場合は不要
RCA	RCA1	基板取り付け	RJ-2140	(1)(*3)	基板直配線の場合は不要
DC ジャック	DCJ1, 2	基板取り付け		(2)(*4)	基板直配線の場合は不要
LCD	LCD1	20 $\times$ 4 タイプ	SC2004	1(*5)	
基板		PA5756T		1	

※ハッチング部がキットに付属。

(*1) ~ (*5) については秋月電子で入手可能です。

(*1) [GRM32EB31H106KA12] 10uF/50V



RoHS
積層セラミックコンデンサ 10μF 50V ±10% 3225 (5個入)
 [GRM32EB31H106KA12]
 通称コード P-06044
 発売日 2012/08/10
 メーカーカテゴリ [株式会社村田製作所\(Murata\)](#)

表面実装用積層セラミックコンデンサです。小型・大容量でESR、ESLが小さく、高い周波数まで使用できます。省スペース、信頼性の向上、長寿命化などメリットをもたらします。後述はあります。

- 主な仕様
- ・容量: 10μF
- ・定格電圧: 50Vdc
- ・許容誤差: ±10%
- ・温度特性: B(±5)
- ・サイズ: 3225

(*1) [GRM32DF51H106ZA01] 10uF/50V



チップ積層セラミックコンデンサ 10μF 50V 3225 (10個入)

[GRM32DF51H106ZA01]
 通称コード P-04645
 発売日 2011/03/05
 メーカーカテゴリ [株式会社村田製作所\(Murata\)](#)

村田製作所製の表面実装用チップ積層セラミックコンデンサです。積層セラミックコンデンサは高周波特性に優れておりロジック回路やバスコン、電解コンデンサの置き換え等に最適です。

- ◆シリーズ名: GRM
- ◆特徴: すぐ置き電解品
- ◆サイズ名: 3225
- ◆寸法: 3.2mm×2.5mm×2.0mm

(*2) タクトスイッチ／各色あります。



タクトスイッチ (黒色)

通称コード P-03647
 発売日 2010/04/01
 メーカーカテゴリ [Coseland Co., Ltd.](#)

基板取付用のタクトスイッチ (押しボタンスイッチ) です。2.54mmピッチの基板上に使用できます。

- カラーバリエーション (バラ売り) 案内
- 赤 [P-03646](#)
- 黒 [P-03647](#)
- 白 [P-03648](#)

(*3) RJ-2410/基板用 RCA ジャック (各色あります)



RoHS
基板用 R C A ジャック (黄)

[RJ-2410N/Y]
 通称コード C-06508
 発売日 2013/03/05
 メーカーカテゴリ [UnitedAu-Vi \(ULTIMAX\)](#)

ローコスト R C A ピンジャック

■基板実装用

参考資料

[RJ-2410N.pdf](#)

色違いでバリエーションがあります。赤 [C-02385](#)、白 [C-02386](#)、黄色 [C-06508](#)、黒 [C-06509](#)
[R J - 2 4 1 0 シリーズ一覧](#)

(*4) DC ジャック 2 . 1 m m 標準 D C ジャック (4 A) 基板取付用 [18742]



RoHS
2.1mm標準DCジャック(4A) 基板取付用

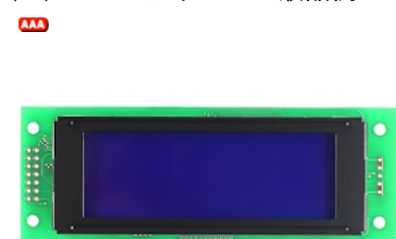
[18742]
 通称コード C-09408
 発売日 2015/06/10
 メーカーカテゴリ [LUGON TECHNOLOGY INC.](#)

基板取付用のDCジャックです。大電流を考慮したDCジャック(最大4A)です。2.54mmピッチに合わせて設計されていますが足を曲げると入ります(写真4枚目)。

■主な仕様

- ・内径: 2.1mmφ
- ・外径: 5.5mmφ
- ・定格: DC20V、4A

(*5) SC2004 シリーズの液晶例



LCDキャラクタディスプレイモジュール 20×4行 LEDバックライト付・白抜き

[SC2004CBWB-XA-GB-G]
 通称コード P-04665
 発売日 2011/07/12
 メーカーカテゴリ [Sunlike Display Tech. Corp.](#)

背景色がブルー、白文字のおしゃれなキャラクタ液晶表示器です。

- 20×4行キャラクタ表示液晶モジュール
- ハイコントラストタイプ
- PICマイコン、H8マイコンで制御ができます。
- 5V単一電源で動作します

※16×2行のモジュール(SC1602系)と電源(Vdd、Vss)が逆になっています。

差し替える場合は横さないようにご注意ください!

◆制御方法資料付

※14ピン端子(メス: [C-00169](#) オス: [C-00166](#))が付属します。

※写真4枚目は多目的タイマー([K-00190](#))に装着して表示させた例です。



5. 接続方法

(1) 電源の接続

本基板には2系統の電源が必要です。1つはデジタルおよびアナログ回路用の V_{cc} (5V)、もう1つはパワーアンプ部の V_{pp} (12V 以上) です。それぞれ DCJ2 および DCJ1 をつかって供給します。AC アダプタを使用して $\phi 2.1\text{mm}$ の標準ジャックを使用すると簡単でしょう。あるいは直接配線することもできます。

V_{pp} については必要とされるスピーカ出力にあわせて電圧ならびに電流容量を選択すればいいでしょう。ただし TAS5756 の最大入力 は 26V 程度ですので、24V を最大値として考えたほうがいいでしょう。実用的には 15V もあれば十分ですから 15V から 24V の間で選択すればいいでしょう。推奨は 15~20V の範囲です。

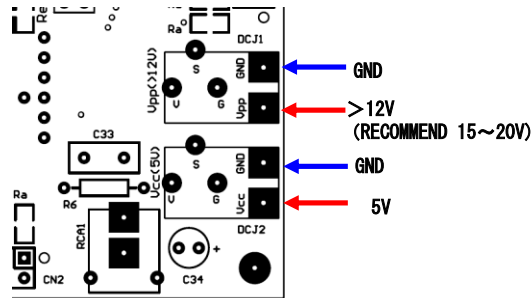


図 電源の接続

(2) デジタル入力の接続

本基板は最大で SPDIF が 4ch、PCM 入力で 2ch の入力が可能です。SPDIF-0, 1 は同軸入力、SPDIF-2, 3 は 3.3V ロジック電圧のデジタル入力、PCM 入力は 3.3V ロジック電圧入力になります。

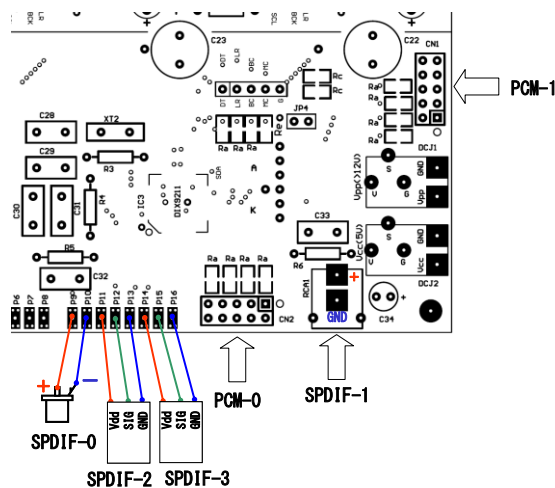


図 入力の接続

(3) スピーカの接続

本基板は最大で 3ch のステレオスピーカを接続することができます。通常は CH1 を LOW (WOOFER)、CH2 を MID (MID-RANGE)、CH3 を HIGH (TWEETER) を接続しますが、入れ替えてもかまいません (設定次第です)。

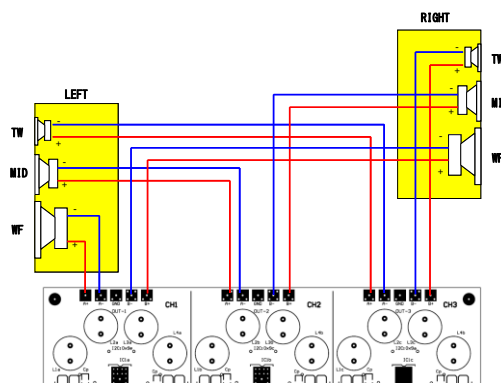


図 スピーカの接続例

(4) LCD の接続

LCD は CN3 を介して接続します。ケーブル等を使用して接続する場合は偶数ピンと奇数ピンを間違わないようにしてとりつけます。LCD に供給する電圧は JP3 で 5V あるいは 3.3V のどちらからに設定してください。SC2004 ではなく、その他の一部の LCD は 5V 電圧で駆動させた場合に、ロジック電圧不足で動作不良をおこす場合がありますので、その場合はシリコンダイオードを 1 本シリーズに接続させて、LCD への供給電圧を 0.6V 低下させることで動くと思います。

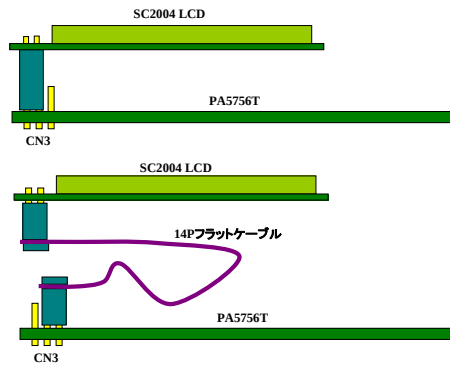


図 LCD (SC2004) の接続例

- (a) 直接接続する場合は CN3 の外側 2 例を使用します (図の上側)
- (b) フラットケーブルで接続する場合は CN3 の内側 2 例を使用します (図の下側)。
これは偶数、奇数ピンが入れ替わるためです。

(5) コンソールスイッチの接続

本基板の操作スイッチは項目を切り替える TERM+, TERM-スイッチとパラメータを変更する PARA+, PARA-スイッチの計 4 個からなります。これらのキースイッチは基板上のスイッチを用いることもできます。また P1 ~ P5 から配線して外部キーを取り付けることもできます。

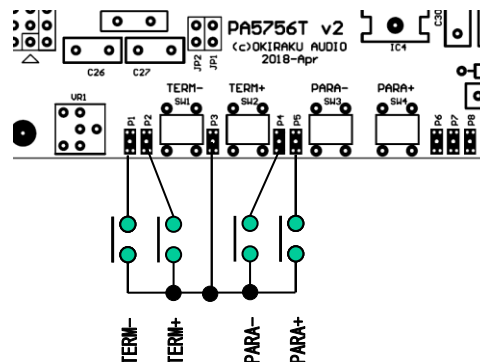


図 操作用キースイッチの取り付け (外付け SW の場合)

(6) 外付け電子ボリュームの接続

外付けの VR による電子ボリュームを用いる場合は下図のように 1k~50kΩ の B カーブの可変抵抗を取り付けます。VR を使用せず操作キーでボリューム調整を行う場合は P6, P7 を短絡させておいて不意な大音量がでないように MUTE 状態とします (操作キースイッチにて外付け VR による電子ボリューム機能を無効にすることも可能です)。

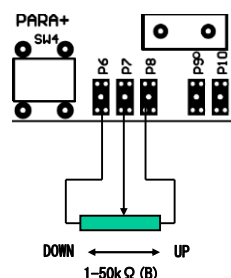


図 外付け電子ボリュームを使用する場合の接続

6. 基板パターン

(1) シルク

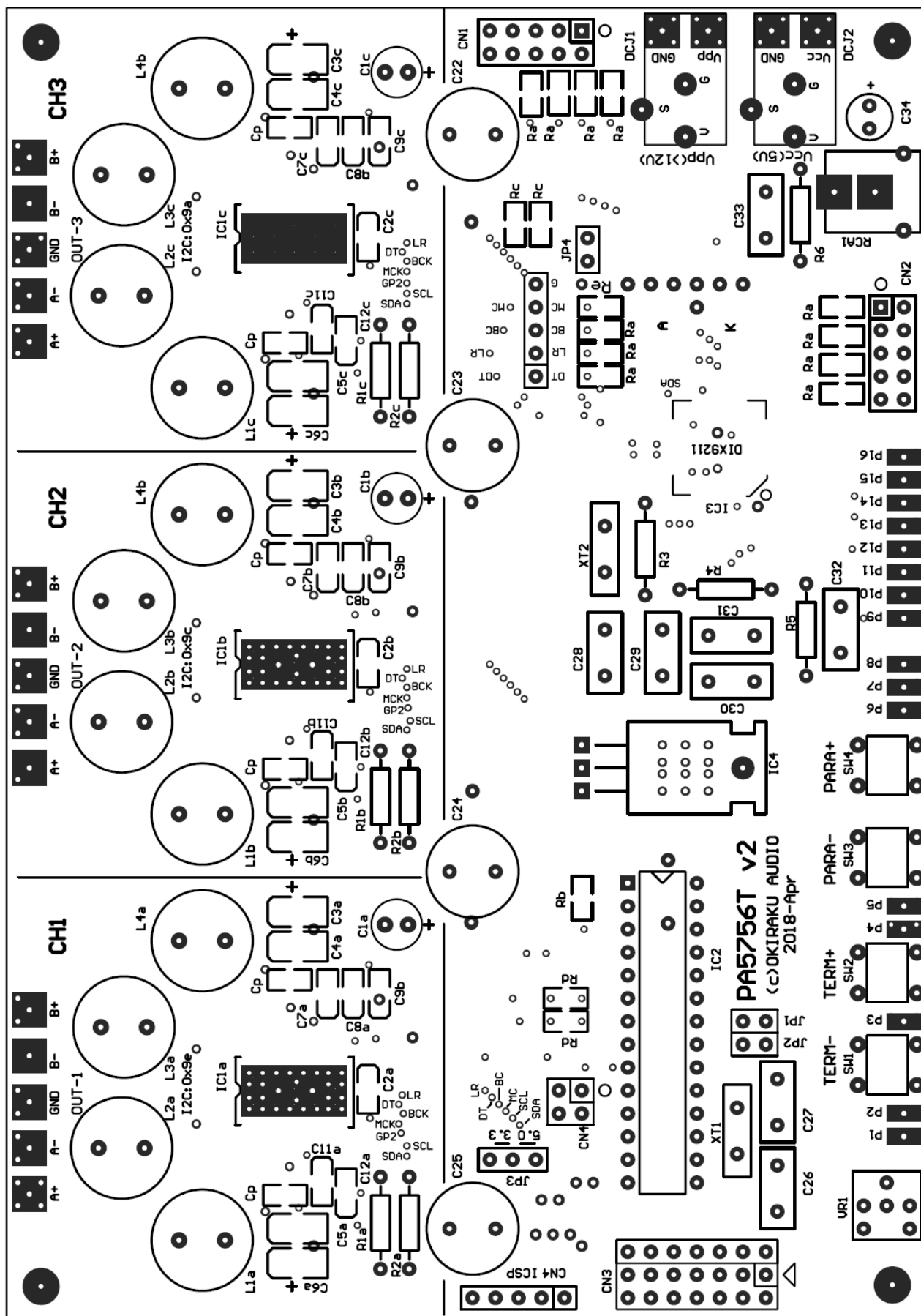


図 シルク (C22-25 の極性は左側が“+”になります)

(2) 配線パターン (部品面)

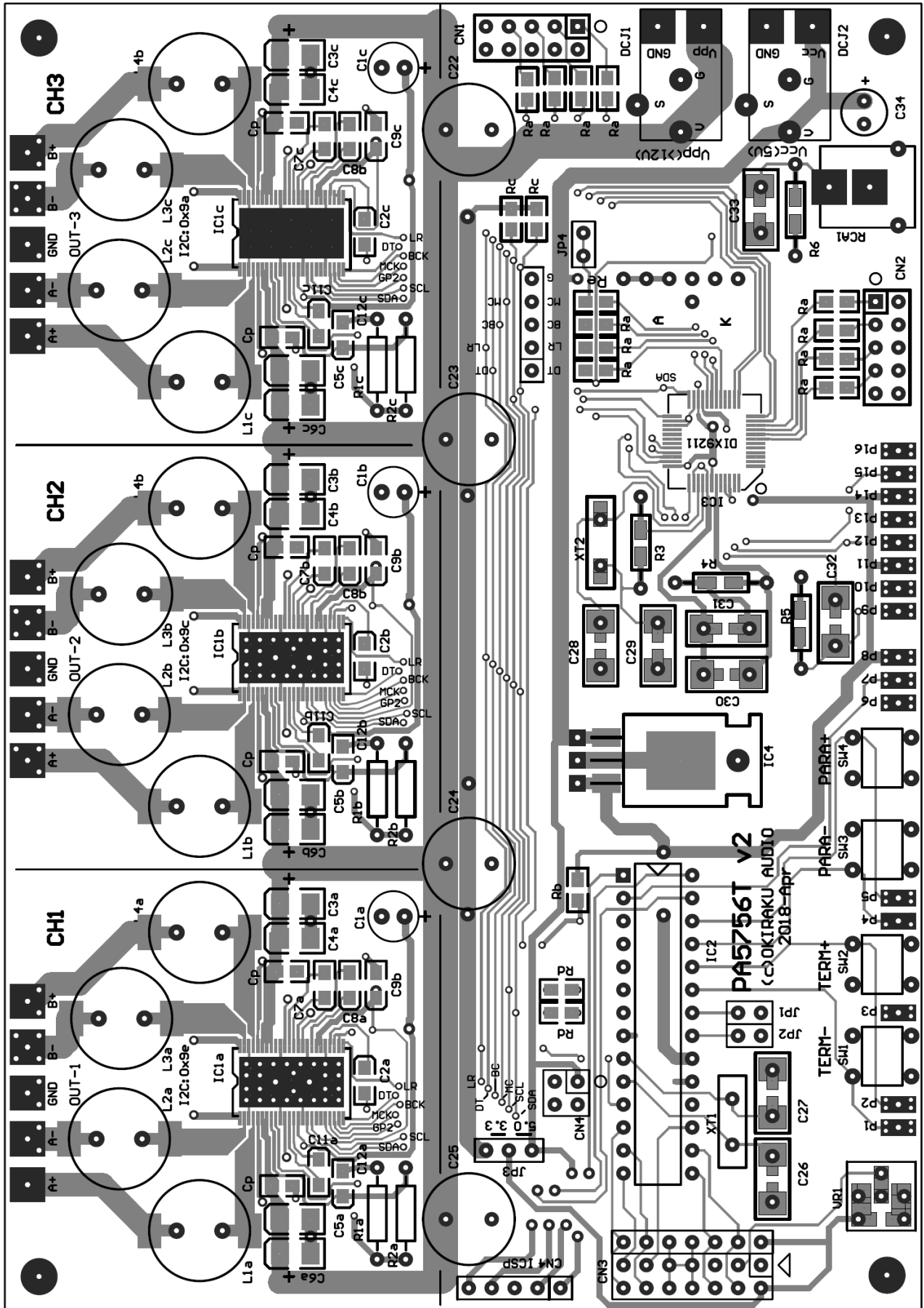


図 部品面パターン

(3) 配線パターン（半田面：部品面より透視）

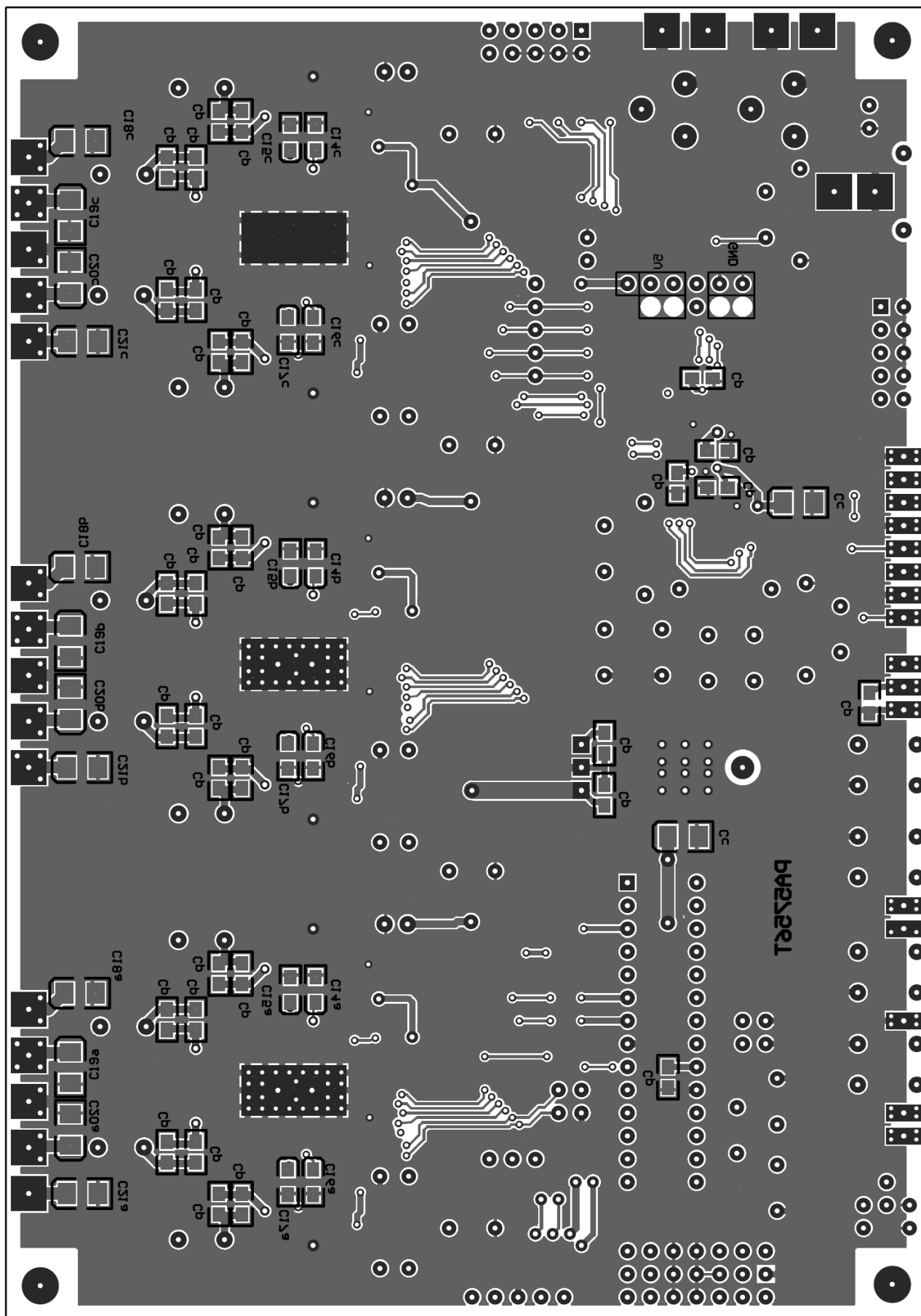
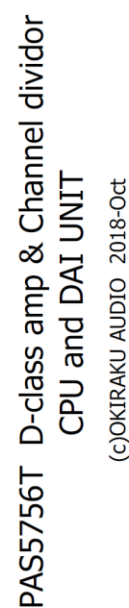
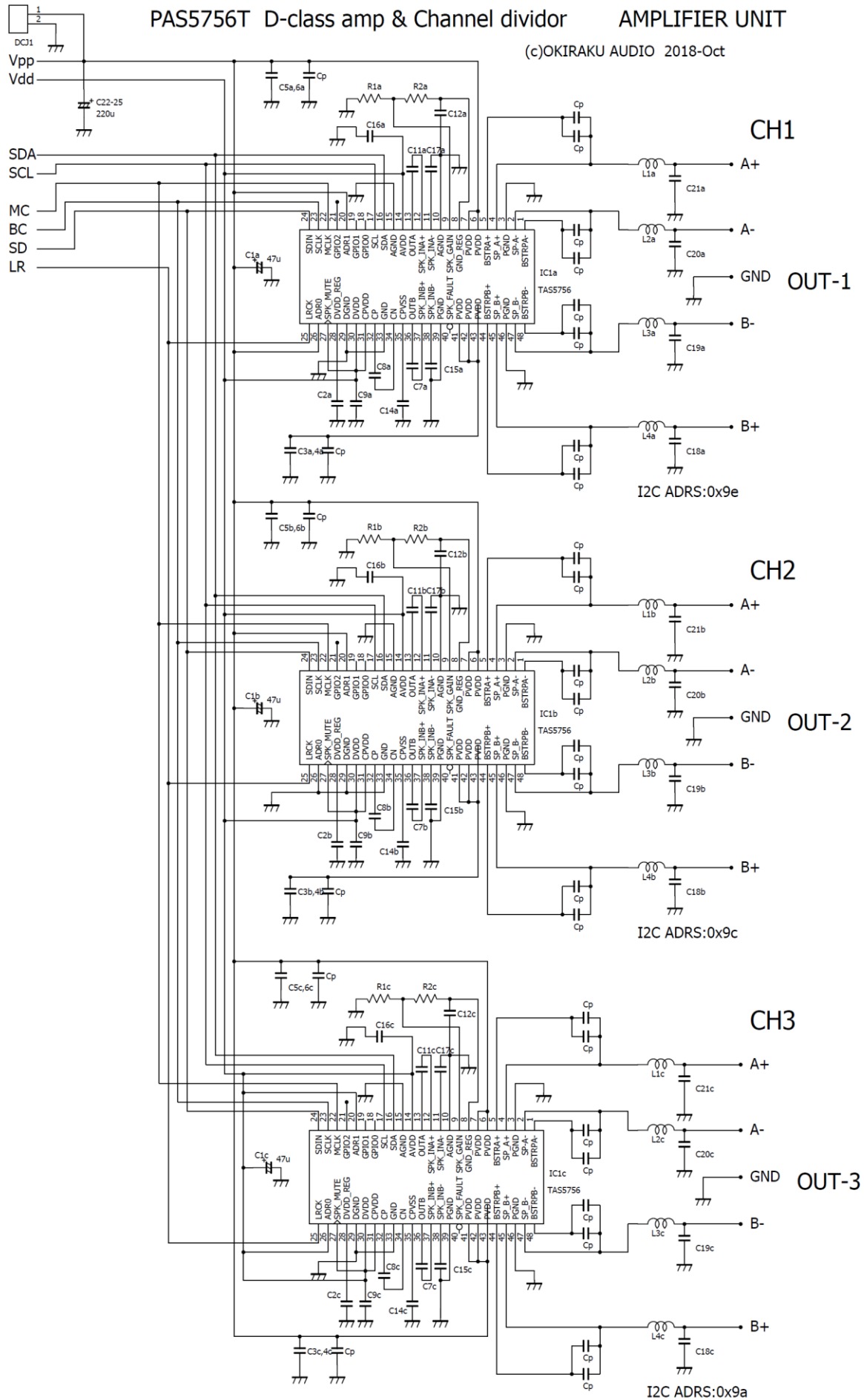


図 半田面パターン＋半田面シルク

(1)PIC コントローラ &DAI 部



(2) アンプ部

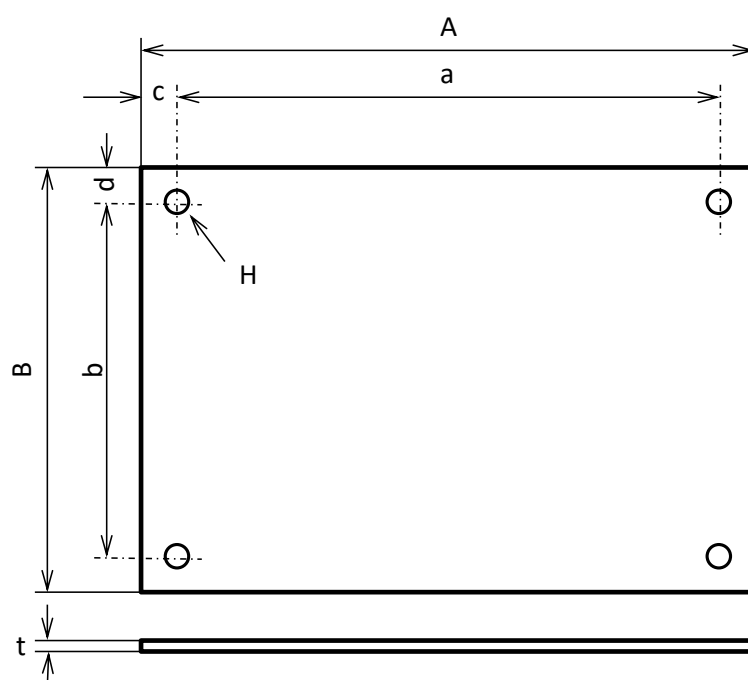


8. 基板寸法

本基板サイズは” WIDE “になります。

表 寸法 単位 mm/(mil) ※1mil=25.4/1000mm

	name	A	B	t	H	a	b	c, d
	STD-S	119.4 (4700)	43.2 (1700)	1.6	3.5 (138)	111.8 (4400)	35.6 (1400)	3.8 (150)
	STD	119.4 (4700)	81.3 (3200)	1.6	3.5 (138)	111.8 (4400)	73.7 (2900)	3.8 (150)
	STD-H	81.3 (3200)	59.7 (2350)	1.6	3.5 (138)	73.7 (2900)	52.1 (2050)	3.8 (150)
✓	WIDE	144.8 (5700)	101.6 (4000)	1.6	3.5 (138)	137.2 (5400)	94.0 (3700)	3.8 (150)
	None							



9. 機能設定

以下に本基板での機能設定の操作方法について説明します。

(1) 操作スイッチ

基板端子 P1~5 を用いて制御スイッチ（プッシュスイッチ）を取り付けるか基板上の SW 1~4 を用いて操作します。P1, 2, 4, 5 からのスイッチの接続先はすべて GND (P3) になります。通常は 4 つのスイッチを取り付けることを想定しています。

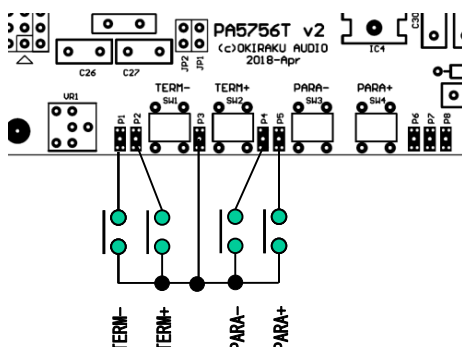


図 操作スイッチの取り付け

なお、操作スイッチのそれぞれの役割は下表のようになります。

表 制御スイッチの機能と説明（フルファンクションモード）

接続端子	名称	機能	説明
P9	PARA+	PARAMETER (INC)	設定項目のパラメータを1つ変更（+1）
P10	PARA-	PARAMETER (DEC)	設定項目のパラメータを1つ変更（-1）
P11	TERM+	MENU TERM (INC)	設定項目を変更（+1）
P12	TERM-	MENU TERM (DEC)	設定項目を変更（-1）

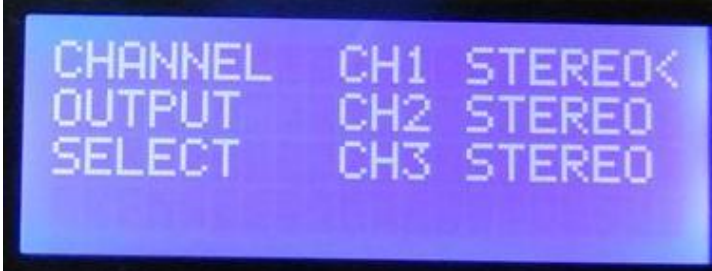
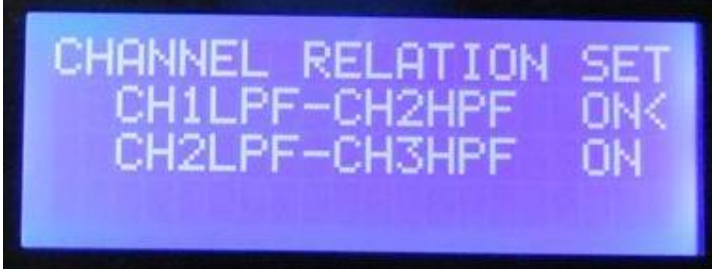
次項以降は操作方法を示しますがソフトウェアは DIV5142 をベースとしています。

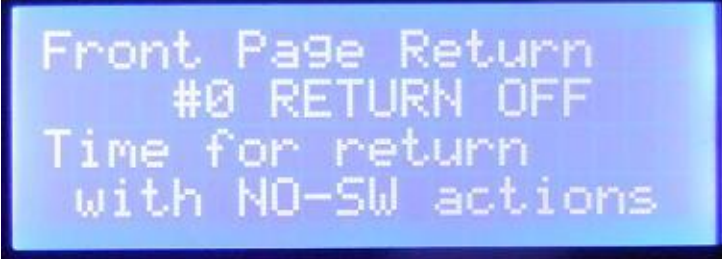
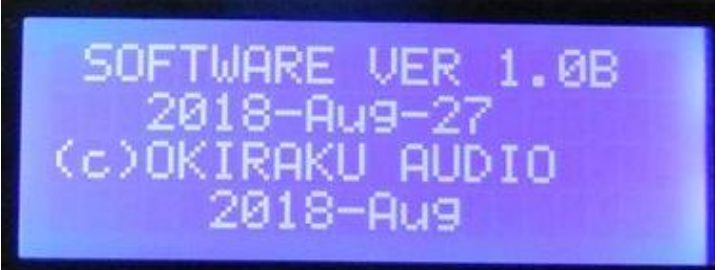
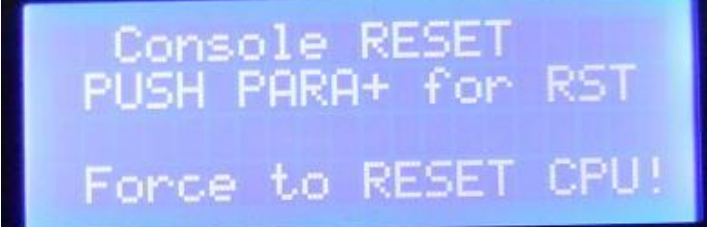
(2 操作方法

設定項目 (TERM) およびパラメータ (PARA) スイッチを用いて各種の機能を設定します。電源投入時は必ず設定項目 TOP (FRONT PAGE) となりますので、設定項目スイッチにより設定したい項目を変更してください。下記に設定項目と変更可能なパラメータおよび、LCD 表示器の説明を行います。

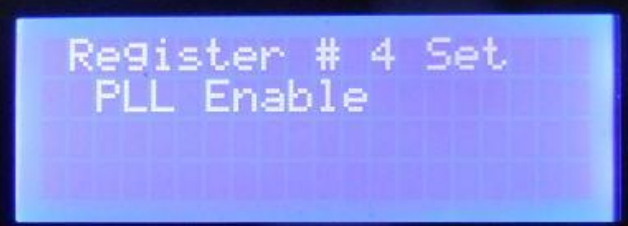
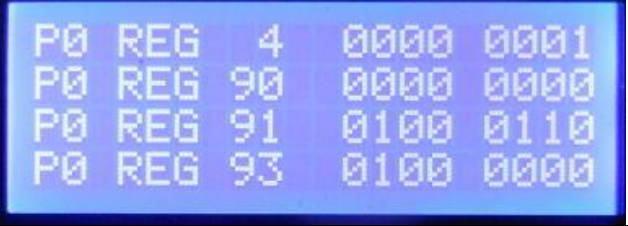
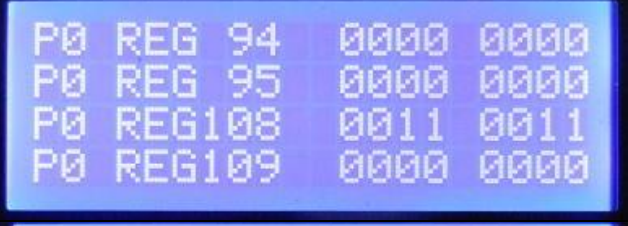
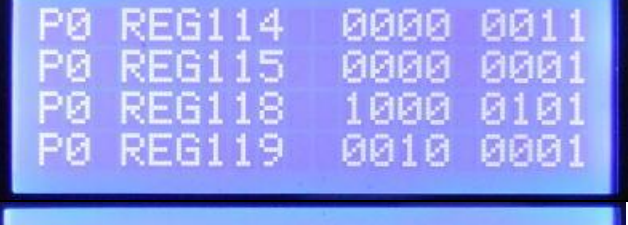
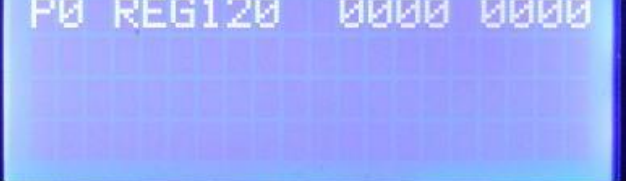
表 フルファンクションモードでの操作法

設定項目	表示例および説明	変更可能なパラメータ
FRONT PAGE		通常立ち上がった時の画面です。ATTENATION、入力チャンネル、と入力周波数を表示します。最下段はフィルターの状態です。 ※周波数表示 unknown は未入力状態を示します。
2. フィルター一周波数、ゲイン設定		このページで HPF, LPF, . ゲインを設定します。各 CH で独立して設定が可能です。表示は文字数抑えるため 2 5 0 0 は 2k5 と表示しています。 ゲインは -20 ~ +3 dB で 0.5dB 毎に設定可能ですが、+側にするときは DAC の出力が飽和する場合があります。通常は一側だけで使用します。 ” < ” で表示されているところが変更箇所になります。TERM スイッチで切り替えます。
3. フィルタータイプ選択		フィルタータイプとしてバターワースとリンクウィッツ・ライリーの 2 種類から選択します。既定値はバターワースになります。
4. バイクワッドフィルター次数選択		フィルタの次数を下記から選択します。 2 次 (-12dB/oct) 4 次 (-24dB/oct)、 6 次 (-36dB/oct) 8 次 (-48dB/oct) リンクウィッツ・ライリーの場合は 2, 4, 8 次のみになります。既定値は 4 次です。

設定項目	表示例および説明	変更可能パラメータ
5. フィルターテーブル選択		フィルターの遮断周波数は決められた周波数帯を102分割したテーブルに基づいて設定しています。その周波数帯を4つのテーブルから選択します。 1) 40~20000Hz (既定値) 2) 40~10000Hz 3) 40~ 5700Hz 4) 40~ 3500Hz
6. 出力形式選択		出力をステレオあるいはMONOにするかを選択します。通常はSTEREOを選択しますが、サブウーハなど1個だけを用いる場合はMONOを選択すればいいでしょう。既定値はSTEREOです。 ”<”で表示されているところが変更箇所になります。TERMスイッチで切り替えます。
7. チャンネル連動選択		各チャンネルの遮断周波数はばらばらに設定できますが、隣のチャンネル間のそれぞれのHPFとLPFを連動して操作したい場合はここでONを選択します。OFFにすれば、各遮断周波数はばらばらで動きます (既定値はON)。 ”<”で表示されているところが変更箇所になります。TERMスイッチで切り替えます。
8. ボリューム選択		ボリュームを可変抵抗 (VR) で設定するか、あるいはキー (SW) で設定するかを選択します。キー (SW) を選択した場合は、フロントページにて PARA スイッチにて変更ができます。既定値はVRです。
9. 入力フォーマット選択		入力フォーマットを下記から選択します。 1) I2S (既定値) 2) LEFT JUSTIFIED 3) RIGHT JUSTIFIED 16Bit 4) RIGHT JUSTIFIED 20Bit 5) RIGHT JUSTIFIED 24Bit 6) RIGHT JUSTIFIED 32Bit

設定項目	表示例および説明	変更可能パラメータ
10. フロントページリターン速度		キー操作が一定時間無い場合、自動的にフロントページに移動する時間を設定します。 1) #0 RETURN OFF (既定値) 自動では戻りません。 2) #1 FAST RETURN 3) #2 MID RETURN 4) #3 SLOW RETURN
11. ソフトウェアバージョン情報		PIC 内のソフトウェアのバージョン情報です。
12. 初期リセット		この画面が表示されているときに、PARA+スイッチを押すとシステムの初期化を行います。すべてが既定値に設定されます。

以下は隠しコマンドになります。JP2 を短絡させた場合に有効になりますが、通常は使用することはありません。また使用による障害等については責任を持ちません。

設定項目	表示例および説明	変更可能パラメータ
レジスター設定 # 4		PAGE 0、REGISTER4 の内容を書き換えます。 内蔵の PLL の ENABLE、. DIDABLE を設定します。 既定値は ENABLE です
レジスター設定 # 14		PAGE 0、REGISTER 14 の内容を書き換えます。 マスタークロックの選択を行います。 AUTO、SCK、. BCK から選択できます。 既定値は AUTO です。
レジスター設定 # 37		PAGE 0、REGISTER37 の内容を書き換えます。 クロックの regard/ignore の選択を行います。 既定値は REGARD です。
レジスター表示 1		これは読み出しオンリーのレジスターの表示です。 詳細は TAS5756 のマニュアルを参照します。
レジスター表示 2		これは読み出しオンリーのレジスターの表示です。 詳細は TAS5756 のマニュアルを参照します。
レジスター表示 3		これは読み出しオンリーのレジスターの表示です。 詳細は TAS5756 のマニュアルを参照します。
レジスター表示 4		これは読み出しオンリーのレジスターの表示です。 詳細は TAS5756 のマニュアルを参照します。

10. 編集履歴

Revision	DATE	CONTENT
R1	2018. 10. 14	初版
R2	2023. 7. 15	部品表修正 (10uF -> 10uH)